

<今回>211回目 2017年5月26(金)16時~18時 1503号室
読書は8冊目「邪馬壹国の論理」255P 九州王朝の古跡 より

<前回>210回目(17-5-8) 出席者6名
資料 17-05-08-1) 前回のまとめ(清水)
-2)九州年号と郡評論争(清水)

A 報告

前回は日程を変更したのが徹底されていなくて迷惑をおかけした。長谷氏が急逝されたことを聞いた。2月だったそうである。多元のHPの方に連絡が息子さんからあったそうで詳細を聞いている。5月18日から20日まで北部九州の装飾古墳を見学した。女山神籠石展望台、こうやの宮、石人山古墳、岩戸山古墳、大善寺玉垂宮宝物館、前畑遺跡解説、阿志岐山城、王塚古墳、立岩遺跡、竹原古墳など有名なところを見られた。

津多屋13486円(2000・6)-1486円

B 資料 -2)横浜大岡地区センター(弘明寺)で5月9日より古田古代史講座を河口氏、大墨氏と開始する(応募者約40名)。月2回(第2,4火曜日10時から12時)10回シリーズ。1回目は河口氏が「『邪馬台国』はなかった」から壹国と短里と距離、島半周読解全距離と考古学から博多湾岸を示した。第2回目の「倭の5王」の講座で九州年号の存在と、郡評論争を紹介し、九州王朝の実在と日本書紀の欺瞞性政治的偏向性を指摘したい。

C 読書 p244 七支刀の年号の論理

- 1)石神神社(天理市)の七支刀の展示があった。(昭和49年10月25~30日)これは神功紀の七枝刀記事に基づいて読解されてきた。
- 2)献上説、下賜説とも解釈に思想的なものが入っている。銘文の年号は泰和四年(東晋369年)、百済の逸年号、北魏の年号(480年)説がある。年号の論理性に合わない。
- 3)宜供侯王の供は与えるという意味もある。供えるという意味も当然ある。このとき百済王はこの異形刀を倭王の為に特鑄して倭王に贈り、その歓心を求める(政治的に)必要があった。(百済王が倭王に助けを求めざるを得ない時期に年号を設定しなければいけない)
- 4)①倭王武の上表文(478年)は中国南朝に臣と称している。②高句麗好太王碑文では「永樂」という固有の年号を用いている。
- 5)補の上田正昭氏(日本上代氏学の始まり昭和50・8・20P162)は前涼の例を挙げて、国として独立しながら東晋の年号を用いた例があるとして反論されたが誤読をされていると指摘(難解で分からない)。
- 6)銘文 泰和四年〇月十六丙午正陽造百鍊鑄七支刀生辟百丘宜供侯王〇〇

次回日程 17-6-2(金) 16時から19時 1503号室
6-26(月)16時から18時 1503号室
7-7日(金)16時から19時 1503号室
7-24(金)15時から18時 1503号室